



# 令和6年度 第2回子ども支援交流会

～スポーツを通じたこどもの居場所づくりの取組事例報告会～


2024年11月1日

神奈川県次世代育成課

# 子どもの居場所づくりの新たな展開




### 地域の子どもの居場所の現状



こども食堂

- ・食の支援が中心
- ・子ども目線からは…

勉強やスポーツを  
教えてくれるなど、  
**多様な居場所**が  
欲しい！



食の支援以外はまだまだ少なく、  
子どものニーズに  
応えきれていない

Kanagawa Prefectural Government

### 課題

- ・子どもの居場所では…

学習や体験を支援  
したいけど、教える  
人や設備がない

- ・官民連携による  
「多様な担い手」が必要  
(国の指針)

企業の悩み…

何ができるかイメージ  
しづらい、メリットも  
わからない

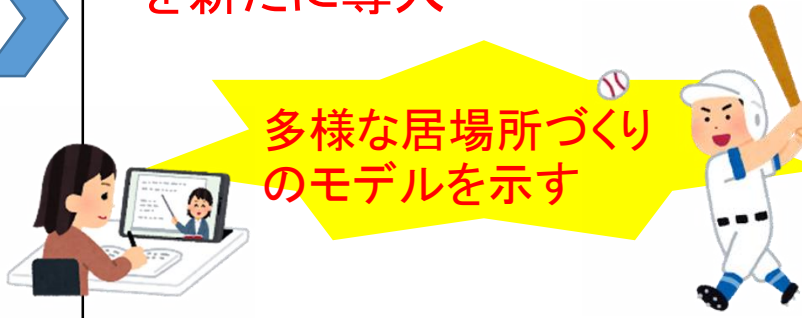
単発のスポーツ教室ならやっ  
ているが、地域での継続的な  
居場所づくりは未経験

### R6年度モデル事業

企業やプロスポーツチーム  
に委託し、  
・学習支援  
・スポーツ体験  
を新たに導入



多様な居場所づくり  
のモデルを示す



将来的には  
企業の自主事業として横展開！

SDGsパートナーなど  
企業が担い手になり  
多様な居場所の拡大

# スポーツを通じた こどもの居場所づくりモデルの創出

## 1 ニーズ

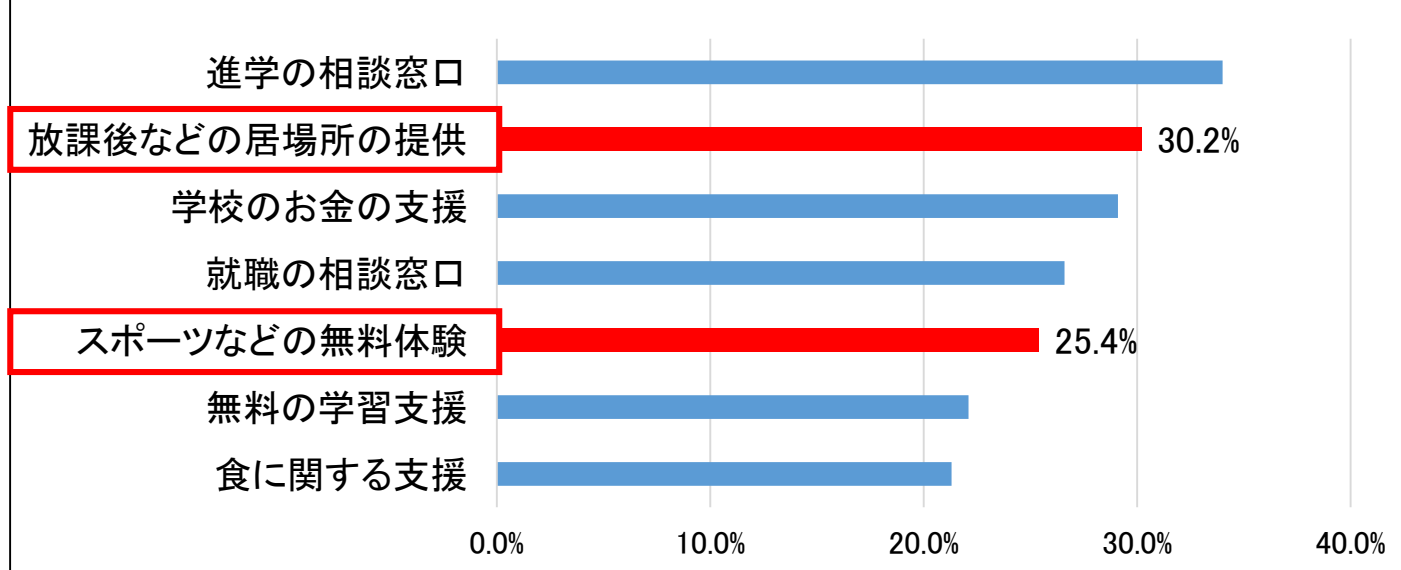
子ども

- ・ 学校がない長期休暇中に行くところがない
- ・ スポーツなどを無料で体験できる機会が欲しい

スポーツ  
チーム等

- ・ 将来、スポーツを楽しむ人や人材育成のための裾野を広げたい
- ・ 指導者はいるが、活動場所がない

中学生が希望する行政支援(抜粋)



Kanagawa Prefectural Government

出典: 神奈川県 R5年度 子どもの生活状況調査



コロナの影響で学校生活が制約され、不登校・中途退学が増加している。学校以外に社会とつながる居場所が必要。

居場所づくりはNPOが中心で、寄附を財源に実施している。行政からの支援を拡充すべき。



R5年度 かながわ子ども支援協議会

# スポーツを通じた こどもの居場所づくりモデルの創出

## 2 「多様な担い手による(多様な)こどもの居場所づくり」支援策

- 県からスポーツチーム等に委託し、長期休暇中のこどもの居場所づくりとして無料のスポーツ教室などをモデル的に実施  
⇒県は、実施先の市町村とスポーツチームとのコーディネートを実施
- モデル事業の効果を測定し、横展開を図ることで、将来的に企業の自主事業につなげていく

